

救急集中治療科について

ICU(集中治療室、「アイシーユー」と読みます)をご存じでしょうか? 新型コロナウイルス感染症の報道でも、ICUという言葉が耳にされたと思います。ICUと聞くと皆さんは何を想像されますか?

生命の危機に瀕する患者さんが入院する場所、高度な医療機器で取り囲まれた場所、心電図のアラームが鳴り響く場所などを想像されるでしょうか。そんなイメージのあるICUですが、ICU内で診療を行うことを専門とする医師がいます。集中治療医(Intensivist、インテンシビスト)です。集中治療を志す医師は、特定の施設で経験を積み、厳しい条件をクリアして集中治療専門医の資格を取得します。現在愛知県には集中治療専門医は124人しかいません。愛知県の医師は約15,000人ですから医師1000人あたり8人という貴重な存在です。

当院の救命救急センターは1991年に稼働して以来、約30年の歴史がありますが、主に循環器内科、心臓血管外科、救急科などの集中治療が得意な科の医師が集中治療を行っていました。救急科は2009年に

創設され、集中治療を行っていた時期もありましたが、ここ4年間は救急外来とドクターカーの業務を行っていました。しかし、今年4月に転機が訪れました。名古屋大学医学部附属病院から3名の集中治療医が常勤として救急科に赴任しました。そして集中治療にも力を入れることとなり、科の名称を「救急集中治療科」と改め、新たなICUの体制を築いていくことになりました。



救急集中治療科

集中治療とは、「生命の危機にある重症患者を、24時間の緻密な観察のもとに、先進医療技術を駆使して集中的に治療するもの」であり、ICUとは、「集中治療のために万全の診療体制とモニタリング用機器、ならびに生命維持装置などの高度な診療機器を整備した病棟」のことです。1990年代以降、各種の薬剤・生命維持装置などの機器の整備が進んだことで、ICUは長足の進歩を遂げました。しかし現在では、患者の救命に大きく影響するのはむしろ、「専門トレーニングを受けた医師やコメディカルがその診療に深く関与すること」が重要とされています。

当院にはICUベッドが8床、救急病棟ベッドが30床あり、人工呼吸器、人工心臓、血液透析などの最新の生命維持装置を駆使して、患者さんの救命に取り組んでいます。救急科改め救急集中治療科は、ICUに集中治療医が常駐し、各専門診療科と協力・連携することによって、質の高い集中治療を提供し、救命率の向上に貢献したいと考えています。